

## 原文

噫亦難矣、豈我與<sub>ニ</sub>三子<sub>ニ</sub>之所<sub>ニ</sub>能及<sub>一</sub>哉、然而古人不<sub>レ</sub>云乎、  
 寧學<sub>ニ</sub>聖人<sub>ニ</sub>而未<sub>レ</sub>至、不<sub>レ</sub>欲<sub>ド</sub>以<sub>ニ</sub>一善<sub>ニ</sub>成<sub>ト</sub>名、則立誠之學、雖<sub>ニ</sub>自知<sub>ニ</sub>其  
 難<sub>ニ</sub>而不<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>不<sub>ニ</sub>敢庶幾<sub>ニ</sub>焉者、學者立志之道然也  
 舍右鑿<sub>レ</sub>池植<sub>ニ</sub>白蓮、左有<sub>ニ</sub>小樓<sub>ニ</sub>扁以<sub>ニ</sub>張錦、余講誦之暇、時登而臨焉、則  
 連山廻繞、草樹鬱葱、煙霞之相惹、漣漪之相映、

読み  
 噫亦難しいかな、豈我れ二三子と之れ能く及ぶ所か、然而して古人云  
 わずや、寧くんぞ聖人學びて未だ至らず、一善を以て名を成すを欲せ  
 ず、

則ち立誠之學、自から其の難しさを知ると雖も、而して敢えて庶幾  
 せざるべからず、學ぶ者は立志の道は然なり。

舍は右に池を鑿<sub>うが</sub>ち白蓮を植え、左に小樓あり  
扁は張錦を以てす、余講誦の暇に、時に登りて臨むかな、則ち連山廻繞、草樹鬱葱、煙霞之相惹、漣漪之相映、  
 （加代子）

## 訳

ああ、やはり難しいことである。ことによると私と弟子達とよく及  
 ぶことができるだろうか。しかしながら、昔の人も云つてゐるでは  
 ないか。聖人でも学んで未だいたらずと。一つのよいことをしたか  
 らと言つて名を成すことを欲しないことだ。

則ち立誠の學問は、もとより其の難しいことを知つてゐるが、それ  
 でも敢えて、それを願わなければならぬ。學ぶ者が志を立てて進  
 む道はそういうものだ。

舍は右に池を鑿ち白蓮を植え、左に小樓があり 張錦と名づけられて  
 いる。私は講誦の暇な時に、そこに登つて辺りを眺めている。  
 山が連なり、周囲を取りまいてゐる。草や樹が生い茂つてゐる。霞  
 や霧がたなびき、川はさざなみが光を受けて輝く、

## 語句

噫<sub>ニ</sub>ああ

豈<sub>ニ</sub>「豈<sub>レ</sub>乎（邪）（哉）」は、「あニ<sub>レ</sub>（なる） か」と読み、「ことによ  
 ると<sub>ニ</sub>なのだろうか」と訳す。推測の意を示す。「

然而<sub>ニ</sub>「しかし しかウシテ」と読み、「それにもかかわらず」「そうなの  
 で」と訳す。逆接・順接の意を示す接続句。

矣<sub>ニ</sub>なり かな 平<sub>ニ</sub>か や

哉<sub>ニ</sub>か、疑問 や、どうして<sub>レ</sub>であろうか かな、であるなあ  
 焉<sub>ニ</sub>文末において訓読せずに、「<sub>レ</sub>なのだ」「<sub>レ</sub>にちがいない」と訳す

寧<sub>ニ</sub>③「いづクンゾ（いづクンゾ）」「なんゾ」と読み、「どうして<sub>レ</sub>であ

ろうか」「まさか～ではあるまい」と訳す。反語の意を示す。▽

庶幾<sup>シヨキ</sup> 希望する。こいねがわくは・こいねがうぜひ望むことは。

どうか：～であつてほしい。

扁<sup>ヒラ</sup> うすくたいらな名札。門口にはりつける戸籍票

繞<sup>ショウ</sup> ニヨウ まつわる めぐる

薺<sup>ヒツジ</sup> 青い

煙霞<sup>エンカ</sup> もやと、かすみ。②もやにかすむ景色。③山や川のあるすぐれた景色。

漣漪<sup>レンイ</sup> さざなみ

漪漣<sup>イレン</sup> さざなみ。また、波だつさま。

漣<sup>レン</sup> さざなみ。漪<sup>イ</sup> 波 さざなみ

煙霞<sup>エンカ</sup> もやと、かすみ。②もやにかすむ景色。③山や川のあるすぐれた景色。

清徹秀麗、蒼茫

20 幽遠、宛乎如<sub>ニ</sub>錦綺之張<sub>ニ</sub>所<sub>ニ</sub>以命<sub>ニ</sub>是樓<sub>ニ</sub>也、而倏忽之頃、青者黃、黃者落、而聚者散、而逝者晝夜弗<sub>レ</sub>舍也、則登<sub>ニ</sub>此樓<sub>ニ</sub>者、觀<sub>ニ</sub>變乎前、感生<sub>ニ</sub>乎內、亦足<sub>ニ</sub>以見<sub>ニ</sub>世間富貴功名榮耀之不可<sub>ニ</sub>常恃<sub>ニ</sub>、而種々幻妄之惑可<sub>ニ</sub>以辨<sub>ニ</sub>矣、惑辨而德崇、是孔門相誨之旨、而所謂立誠之學、其或在<sub>レ</sub>斯乎、此樓之所<sub>ニ</sub>以爲<sub>ニ</sub>不<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>廢也

頭注 丁未、弘化四年、先生三十五歳、蓋先生、自天保十四年六月、至弘化四年五月、寓<sub>ニ</sub>於八鹿、

読み

訳

語句